

第5回菰野町総合計画策定検討委員会 会議概要

開催日時	令和2年8月27日（木） 13:30～17:00
開催場所	菰野町庁舎4階 大会議室
出席者	委員11名（欠席者4名）、事務局4名
会議事項	<p>1. 企画情報課長あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）経過報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会説明について、地区懇談会について</li> </ul> <p>（2）人口ビジョン、令和2年度町民アンケート調査結果抜粋について</p> <p>（3）新体系図について</p> <p>（4）分野別目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（防災、地域福祉、土地利用）の中間案について</li> <li>・（生活安全、健康・福祉、都市基盤）の素案について</li> <li>・上記以外の項目にかかる検討資料について</li> </ul> <p>3. その他</p>
会議要旨	<p>1. 企画情報課長あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p style="text-align: center;">－事務局より議会、地区懇談会における経過報告について説明－</p> <p>（1）経過報告（議会、地区懇談会）について</p> <p>委員長：この件について、ご意見があればお伺いしたいと思います。</p> <p>委員：総合計画の計画期間を町長の任期に合わせたことは良い判断だと思います。町長は具体的な目標を持ったマニフェストを掲げて当選しているのだから、それをある程度反映させて総合計画と行政実施計画を作っていく必要があります。そのため、そういった説明はまえがきの中に入れていったほうがよいのではないかと思います。</p> <p>委員長：ありがとうございました。今のご意見と実施中の地区懇談会、ホームページでの意見募集を基に中間案を作成していきたいと思えます。</p> <p style="text-align: center;">－事務局より人口ビジョン、令和2年度町民アンケート調査結果抜粋 にかかると資料説明（資料1、2）－</p> <p>（2）人口ビジョン、令和2年度町民アンケート調査結果抜粋について</p> <p>委員長：この件について、ご意見があればお伺いしたいと思います。</p> <p>委員：4ページの年齢別人口の図の推移で、団塊世代と、団塊ジュニアが結構突出しているというのはこの特徴です。</p>

事務局：菰野町に限らず、三重県北勢地域については比較的多いと思います。

委員：北勢地域は比較的まだ団塊世代が突出して、全国的に多くのところは団塊ジュニアがあまり目立たない。だから人口が減少していくという、そういう理屈ですが、これを見ていると、1985年の団塊ジュニアと2000年の団塊ジュニアと2010年、2015年で、団塊ジュニアの一番多いところの数字というのが確実に伸びていますね。ということは、団塊ジュニアも転入してきていますよね。これは、日本人ですか。それとも外国人が多いのですか。団塊ジュニアがこれだけ転入してきているということ自体がちょっと驚異的という感じがしますが、どう見えていますか。

事務局：具体的な数字が今すぐ出て来ないですが、割合的には外国人の年齢層は高いと思います。ただし、外国人の人口の比率は5%程度ですので、圧倒的に日本人のこの年代の転入が多いというように見ていただいてもいいと思います。

委員：そうすると明らかに団塊ジュニアが団塊世代に引っ張られる形で入ってきているということは言えるということです。それからもう一点は、資料の最後の部分にある「子ども女性比率」の算出の仕方を教えてください。

事務局：一般的には「合計特殊出生率」というのを、国レベルの人口推計では用いるのですが、この「合計特殊出生率」というのが、非常に町村レベルになると変動が大きいということがあるので、代わりに「子ども女性比率」というのを使っています。この「子ども女性比率」というのは、その年に生まれた子どもの数と、女性の15歳から49歳迄の年齢との比率をみているものです。

委員：はい、分かりました。

委員：同じく、人口ビジョンの改訂版（資料1）の23ページの本文の下から4行目のところで、「町内における人口の受け皿として、菰野インターチェンジ周辺の土地区画整理事業などが期待されます。このため」ということで、「このため」ということは、この期待されていることを受けて、ということですが、この「純移動率（パターン2）を基本としながらも」、「20代女性の転出超過が半分に縮小するものと仮定」というところの部分ですが、なぜ、その土地区画整理事業が整備されて、20代女性だけが半分に縮小するかっていうロジックが、若干飛躍しているのではないかというような気がします。仮定を置かないとこのような推計ができないので、その仮定を置くことに異論はありませんが、その合理的な理由を誤解が生まれないように、加筆していく方がよいという意見です。

事務局：菰野インターチェンジ周辺の土地区画整理事業について、基本的には人口の受け皿としてというような表現をしており、どちらかと

言う、その転出超過を問題視して、それが将来の人口に非常に大きな影響を及ぼしている、その部分を何か対応しないといけない、という意思表示です。何も無い中で、転出超過を半分にしますと言えないので、これらを可能にし、実現に近づける方法の一つとして、いわゆる実現に向けての人口の受け皿として、そういう表現をしています。ご指摘のとおり、誤解を与える可能性もありますので、調整していきたいと思っております。

委員：女性の転出を抑えるとしていますが、女性のみ限定するのはどうかと思っております。

委員：14ページの説明で女性の社会減がすごく多いとありました。20代女性がたくさん転出しているということです。そうすると、経済を作ることによって、20代女性の転出を抑える施策を講じればよいという話なのだけれど、一方では、全国データで、初婚年齢は限りなく30代に近づいています。そうすると、そのまま町内にいても、子どもを20代では、データ上、産まないとなってきます。そうすると、この20代女性と限定することが、人口の純移動率を上方修正する根拠にしてよいかどうかという理屈になってしまいます。だから、その部分をどのように表現していくか20代女性の転出を防ぐだけで何とかなるわけではないのではないかということがあると思っております。

委員長：今の意見を踏まえて、再度検討していきたいと思っております。ありがとうございました。事項「(3)新体系図について」です。事務局より資料をもとに説明をお願いします。

－事務局より新体系図にかかる資料説明（資料3）－

(3)新体系図について

委員長：事務局より新体系図の説明がありました。修正の提案があった部分も含めて、前計画からの変更や追加、項目の移動を行った点など、全体でご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員：「都市基盤」のところの「自然と調和した土地利用の推進」の施策の分野別計画の「協働のまちづくりの推進」というのを削除してしまして、情報化の促進などは違う分野へ移動したということですが、削除した理由を確認したいと思っております。

事務局：こちらの項目については、違う分野への移動ではなく削除ということで、整理しています。都市整備課と検討した中で、こちら「協働のまちづくりの推進」というのが、次期計画の全般に関連していく文言で、内容に関しても他の項目で表現している部分ということで、あえてここで項目として一つ設けるのは不自然ではないかとい

うことで、削除しています。

委員：項目をもう少し詳しく見ていくという話になるでしょうし、私も今「協働のまちづくり」の部分については削除しただけになっているので、気になっていました。第5次の計画を見ると、土地利用の中でのまちづくり協議会の結成を謳っている項目なので、そうするとこれは都市計画上のまちづくり協議会のイメージを謳ったのかと。その意味で言うと、都市計画関係のまちづくり協議会と、地区のコミュニティを中心としたまちづくり協議会とは別の性格がありますから、おそらく地区のまちづくり協議会のイメージを、今後どのように表現していくか検討していく必要があると思います。そういうことであれば、このまちづくり協議会の項目は、削除でも構わないかと思います。住民参画と行財政の部分を最初に挙げていったというのは、チャレンジングなことですから、きっちり議論をしていかないといけないと思います。

委員長：それでは、ご意見をいただきましたので、その意見も踏まえて次回の策定検討委員会で中間案について検討していきたいと思えます。議事「(4) 分野別目標の中間案について」ですが、前回、「防災、地域福祉、土地利用」の項目について「素案」を確認し、今回の中間案となります。事務局、資料4の説明をお願いします。

－事務局より分野別目標（中間案：防災、地域福祉、土地利用）  
にかかる資料説明（資料4）－

(4) 分野別目標について（中間案、素案、検討資料）

委員長：素案の際にも特段ご意見がなく、内容の変更はないというご説明でした。この3項目の中間案についてはご異議ございませんでしょうか。

一 同：異議なし。

委員長：では、特段ご異議がないようですので、この項目につきましては最終こちらの内容でまとめていきたいと思えます。次に、議事「(4) 分野別目標」の「生活安全、健康・福祉、都市基盤」について、前回確認し、そのご意見をもとに、今回、素案が出来上がっています。事務局、資料5の説明をお願いします。

－事務局より分野別目標（素案：生活安全、健康・福祉、都市基盤）  
にかかる資料説明（資料5）－

委員長：第6回の策定検討委員会で、パブリックコメント用の中間案としてまとめていくために、こうしたほうがよいのではないかと、という意見があれば伺いしたいと思います。

委員：内容的には、パブリックコメントでいろいろご議論があるだろうと思いますが、例えば 11 ページで、障害の「害」の字がひらがなや漢字だったりしていると思います。どちらかへ統一するべきだと思います。最近「害」をあえてひらがなにしないというのも、一つの考え方だという表現が出てきています。「害」という字を避けなくてはならないという議論が一時あって、今は「害」は社会のシステムの方が害なのであって、これはあえて残しておくべきだという議論もされつつあるようになり、ひらがなにすべきか漢字にするべきか、いずれにしろどちらかに統一しておく必要はあるだろうと思います。

委員長：これについても検討していきたいと思います。策定検討委員会の意見としては、今の意見を踏まえ、次回、中間案について検討していきたいと思います。次に、議事「分野別目標の上記以外の項目にかかる検討資料について」です。なお、時間の都合上、伝えきれない意見があった場合等、本日終了後も引き続きメールなどで事務局に送っていただければと思います。

－事務局より

分野別目標（検討資料：生活安全、健康・福祉、都市基盤を除く全て）  
にかかる資料説明（資料6）－

〔0-1-1 住民自治〕

委員：既存の計画の 3-2-1 の「目指す方向」で「協働のまちづくりの推進」としており、内容としては、「地域まちづくり協議会の設置を促進し、地域の主体的なまちづくりの支援を図る」という位置づけでありました。そして、注釈で、「みんなで取り組む住民自治のまちづくり」との関連が強い項目として表記がされていました。ただ、土地利用、都市計画上のまちづくり協議会ということで、今回は削除しています。そして、それに代わって最初の項目に「住民自治のまちづくり」としてはいますが、「まちづくり協議会」という 10 年前にあった表現を今回全く無くしてしまうことにそれだけの理由があるのか、という思いがあります。これは町としてどう考えていくかだと思います。10 年前よりも遙かに高齢化が進み、そして課題は山積みになっています。2025 年問題に対する地域包括ケアシステムもしっかり完成させないといけないでしょうし、それから小学校も GIGA スクール構想が推進されて、英語も必修化されていく、様々なことで地域というのは、学校を中心として、あるいは高齢者を中心として、地域で支え合っていかななくてはならないという状況になっていきます。ではそれを区、自治会を中心に考えていく方向になるのかどうか、町の考えをお伺いしたいと思います。

委員長：現在は、小学校区を1つとして、社会福祉協議会でまとめているだいでいます。例えば菰野地区ですと、「いいね！大羽根」とか、竹永地区にある「ふれあい竹永」というように小学校区の中の地区で、今抱えている課題をどうにかしていこうというような団体を作っていました。菰野地区は、西地区、東地区に分けて、東地区でも「いいね！大羽根」に類するような、有料でもこのボランティアとして関わっていく団体を作っていこうという計画をしています。先ほど話があったように、区が中心になるのだけれど、その中で、もう一つのまた別の団体というか、高齢者の生活の中でボランティア団体を作り上げていくということを、今考えています。あくまでも、社会福祉協議会の指導の下に行っています。

委員：社会福祉協議会から話をさせていただきますが、私どもも5年に一度住民向けのアンケート調査をしています。その中で地域の皆さんが、一番身近な単位は何かと言うと区の中でも自分の住んでいる15軒、20軒くらいの単位の組、その次に区、そして、小学校区、中学校区、菰野町全体という考えの方がたくさんおられ、それぞれ皆さんの考え方も違ってきています。今、話があったように、私ども社会福祉協議会の立場では、理想は小地域ですが、小地域の中ではなかなか組織化しにくいということもあり、現在のところ小学校区、いわゆる地域のコミュニティセンターを単位として生活支援コーディネーターの配置、あるいは地域包括ケアを小学校区エリアでの単位で検討している現状であります。地域を組織化していき防災のことなども考えていくなれば、小学校区単位くらいのある程度の規模を考え、検討していくべきだと思います。

委員：策定中の次期総合計画は前回と違い、行政と住民が相互に、住民参加というのを表だって明記していく上で、行政のみの「推進」ではなく、共に考えていくという意味で「促進」へと言葉を変えたという説明でした。私は校閲の仕事もしていますので、厳密に言いますと、「推進」から「促進」に変えるということは、主語を変えてしまうということになります。この体系図の中で、「推進」という表現を無くして、全てが「促進」に変えるならば何も疑義は感じなかったのですが、「推進」という言葉を残しながら「促進」へと変えている項目がかなりあります。そうすると「推進」というのは、主語はこの計画を作っている行政側です。そして、「促進」に変えるとすると主語が相手側に移ってしまいますので、細かく言えば放り投げたのかとなります。本当に今回の計画は10年前と違い、確実に進んでいるという実感がかなりあり、その部分はかなりの評価をしています。先ほどの「協働のまちづくり」の部分だけを無くしてしまうと協働ということを掲げる計画においてどうなのかと感じています。ですから、「推進」と「促進」両方の表現をこの体

系図の中に入れていくと、誤解を生んでしまう可能性があります。そうならないように、体制を強化するなどの表現で、主語が明らかにならないという表現にした方が、この0番台として始まる住民参画といった意味の部分で、誤解が生じないのではないかなと感じています。

〔0-1-2 情報共有〕

委員：「広報活動の充実」から「情報発信の充実」と分野別計画のタイトルを変更し、「目指す方向」を「情報発信の充実を図ります」としています。「行政の役割」の中で、情報発信の充実を図るという部分が、少しインパクトが弱いというような感じがします。情報発信の充実を謳うのであれば、少し踏み込んで、多様な情報発信の在り方、「現状と課題」のところにも「的確な情報提供の在り方について、その時代に合ったものとするための検討が必要です」と書いてあるとおり、いろいろな情報の発信の在り方を謳っていけばよいのではないかと思います。「情報共有の推進」は非常に重要だと考えています。そういう意味では「情報発信の充実」という方向性の中で、もう少し行政の役割の記述は踏み込んで書いてもいいのではないかと感じます。

委員：情報公開を推進する時の行政の役割で、情報公開制度があって、そして個人情報の取扱いについて定められた法律に「適切に行う」としています。やはり我々住民としては、情報公開もさることながら、個人情報がしっかり保護されるということが前提になってないと不安で仕方がないという部分があります。「目指す方向」の中で、「情報公開を推進します」の前提に、「個人情報の保護を徹底しながら」とか、何かそういう文言が要るのではないかと思います。目指す方向のところの「情報公開を推進する」の前に「個人情報を保護しつつ」や、「個人情報の保護を徹底しながら」という前提が必要になると思います。

委員：伊賀市の社会福祉協議会の事務局長から地域の方へのアンケート調査を行った話をお伺いしました。その中で、外国人の方からの要望としては、情報が上手く伝達されていないということで、情報発信をきちんとしてほしいという要望があったとのことでした。菰野にも5%程度の外国人がいらっしゃると思いますし、最近私どもでも、コロナの特例ということで生活費の貸付金等の業務にもあたっていますが、外国人同士の情報伝達のツールが活かされているのか、最近になって相談や申請が非常に多くなっています。そうした中で、町民全ての方への発信というのが非常に大事ではないかと感じています。

委員：マイナンバーカードを活用して、何か情報サービスや、提供の強化とかにつなげていくことはできないかと思います。マイナンバー

カードを取り入れながら、住民参画がしやすい仕組みを作ること  
も有益ではないかと感じています。

#### 〔0-2-1 財政運営〕

委員：「目指す方向」の「①財源の確保に努めます」の部分について、菰野町税の納付は、三重銀行、百五銀行、郵便局でもできますが、銀行でも通帳がなくなりつつあり、電子マネーの普及などにより「現金」の扱い方も変わってきていると思います。ICTを進める中で納付のためのチャンネルをもっと増やしていただくと、もっと気軽に払いやすくなるのではないかと感じています。時代に合わせて、この部分の強化もしていかないといけないと思います。今までの方法ありきではなく、新しい世代に向けての方法を少しずつ進めていき、最終的に30年後、40年後にすべてが切り替わるという状態になるかと思いますが、「財源の確保に努める」のところに、「多チャンネルの要素を持って努める」など、積極的な文言が必要かと思えます。

委員：「効率的で責任ある財政運営」という標題で言えば、まさにこの「現状と課題」で示している内容に尽きるだろうとは思いますが、健全な財政運営に努めるためには、6ページにある「行政の役割」で、「適切な行財政改革を推進する」という項目が一番大切です。その時に、内容のとおり義務的経費がどんどん増えていき、自由裁量が利く予算がどんどん無くなるという今の状況からすると、義務的経費を捻出するためにも、今までやりすぎている住民に対するサービスをあえてカットしていく大胆な行政改革がないと、自由な財源を生み出せないということです。もう少しこの行財政改革の中の表現を「適切な」ではなく、「思い切った」というような、表現に出来ないだろうかと思えます。もっと思い切って、官民の役割分担を大きく見直すような、積極的な行財政改革を推進するとか、何かそうした表現を、「行政の役割」に入れていくべきだと思えます。

#### 〔0-2-2 行政運営〕

委員：「目指す方向」の「②組織機構の適正化と職員の育成を図ります」としてはありますが、職員の育成ということだけではなくて、職員を守っていくというイメージになります。町の職員一人ひとりがとても大事で、一人ひとりが働きがいを持って仕事に取り組んでいかないと、やりがいも生まれず、持続可能につながっていかないので、スタンダードな考え方になっています。なので、行政が作る場所に内容を入れるのは難しいという話がありますが、行政職員あつての行政運営なので、適切に税金を使い、効率よく組織運営というのは当然ですが、その一つの歯車として職員を扱っていくのは、今はスタンダードではないと思えます。育成も大事だけれども、職員一人ひとりの働きがいの観点で記載していくべきだと思えます。



委員：社会福祉協議会としましても、組織が大きくなっていくとともに、縦割り化が進んできています。介護保険事業、障害福祉サービスは営利ではありませんが、組織内での運営と非営利組織という部門があり、職員間の中には、だんだん縦割意識が強くなり、住民の方から相談が来た時に、「これは私の仕事でない、あちらです」というような対応になる時もあります。出来る限り職員の中では、隣の仕事は何をやっているのか、その中で自分の出来ることは何なのか、というようなことでの考え方を持つような職員の育成には努めていますが、非営利組織であってこそその悩みということを感じています。

委員長：職員の仕事内容が住民の方に、周知されていないのではないか。どこの課で何をやっているということは分かるけれども、どこまで踏み込んで回答できるのかなど、仕事が見えていないというか、内容が見えていないところがあるので、もっと仕事の内容を発信するということをしてよいのではないかと。課として住民の方に対して、どういう仕事をしていますよと、もっと発信していいのではないかと思います。

委員：今の意見について、アイデアですけれども、私は統合医療コーディネーターをしているので、病院の中でもそういった縦割りの弊害があります。骨を折れば整形、歯が痛ければ歯医者、ということは誰にでも分かりますし、道路や税であれば、ある程度大まかなことは分かっているけれども、その問題が重なり合っている場合は何処に行けばいいのかということが病院でも多くありました。それを解消したのが、総合診療科、総合内科を設けたことで、その縦割りによって生み出されていたデメリットが解消されています。そして、しくみは縦割りで変わりはないけれども、その縦割りに属している専門の先生たちも、入口を総合診療科としたことにより、自分の専門性のスキルを更に高められ、非常に大きいメリットがあります。現状は相談する場所が少なく、社会福祉協議会に行っているのか、役場でもどこに行っているのか分からないという声があり、もしかしたら町民と行政が協働でやっていくことへの弊害に、縦割りがあるのではないかと思います。縦割りのメリットも非常に大きいからなかなか崩せないというのであれば、あえて大胆に変えてしまうのではなく、その間に入るものが一つあるだけで、随分と流れが変わってくると思います。どこに相談していいか分からないと、はっきりしない部分を受けとめるところが庁舎内に一つでもあれば、病院の例と重なるかどうかは分かりませんが、不安が少なくなるのではないかなど、経験上思いましたので、アイデアの一つとして発言いたします。

委員：「④広域連携を推進します」という項目ですが、具体的にどうい

ことか分かりにくいので、もう少し具体的な表現にしてはどうか。行政事務の効率化を図るために、どういうことをすると効率的になるのか、もう少し踏み込んだ方が良いのではないか。あまりにも漠然としすぎています。ここにはそこまで細かいことを書く必要はないかもしれないですが、住民の方にとってメリットがあるのかどうかというのが分かりにくいので、書いたほうがいいのかと思います。

〔0-3-1 技術革新〕

委員：高齢者向けの IT 教育というのを何か示したほうがよいのではないか。やはり我々もついて行けなくなりつつありますから、生涯教育としての ICT 教育が大事ではないか。デジタルディバイドが対象になると思いますが、そういった部分も項目として必要ではないかと思えます。

委員：この 0-3-1 は、旧事業コードの都市基盤分野内 3242 からの、移動させた項目で「現状と課題」の中盤のところに「新たな未来社会 Society5.0 時代への方向性が示されています。こうした技術革新を活用し、生活全般における効率化を図り、今よりも豊かなくらしが送れるよう、一人ひとりが関心を持ち、積極的に取り入れる姿勢が求められています。」としていますが、私はこの文言に違和感を覚えます。何故、取り入れなければいけないのかということです。私は Society5.0 のメリットを授受していると自負しますが、それは自分で必要だと思い、取り入れたということです。Society5.0 は、今まで出来なかったことが可能になり、世界は確実に広がります。まえがきの 5 ページで Society5.0 の図があり、6 ページで SDG s があります。実は、Society5.0 と SDG s は、全く真逆の方向性のものです。文言として「積極的に取り入れる姿勢が求められています」とすると、絶対に ICT 化は進んでいくので、それに乗らないと、国の政策に遅れていくというのがあるけれど、積極的に取り入れなければいけないのかというのは、少し指示的な感じにもとられるのかと思います。取り入れることによって、今よりも効率的で便利な暮らしが送れますということなら分かりますが、「姿勢が求められています」というのは、それについていけない年代層は豊かな暮らしが送れないのかという感じにもなり、文言として指示的かなという感覚を受けました。

委員：私は Society5.0 も SDG s も 10 年先のことを考えているので、その時にどちらに行くかを順番に決めていけばいいと思うし、町長が変われば考え方が変わるので、大きく捉えておいたほうがいいのかと思うので、相反するものを、あえて書くことは問題ないと思います。ただ、これを最初に打って出すようにしないと、文章がわかりにくくなるのではないですか。周りがしているので一緒にやりましょう

としていますが、ではなく菰野町はこれをしていきますとし、デジタル化にするためにどうしていこうという、次の話に動いていくと思います。だから、「これ、します」、で、後はどうするかというぐらいに、ここはしておくべきではないか。したいかしたくないかをはっきりして、ふわっと載せるぐらいならしない方がいいと思います。マイナンバーカードにすることによってとか、デジタルという言葉が多分一番分かりやすいので、「デジタル化を進めることで情報共有をすると皆さんの安心、安全を守れます」とか、「なので、技術革新への適応をしていきます」というようにしないと、読んでもらえない内容になってしまうと思います。国としての動きがないとどうしようもないことかと思うので、町としては、スマホのアプリを入れやす程度でいいのかと思うと、この項目の場所に違和感があり、読みづらいと思うので、順番も含めて検討していくべきではないかと思います。

委員：菰野町は山があり川の前になるところに町が位置しているので、土砂災害が想定されます。例えばドローンを飛ばして、危険箇所を撮影、データ化して、災害防止に役立っているのはどうか。ここは他の「現状と課題」の記述に比べて、一般的なことが書いてあるので、こういうものを使えばこういうことが可能になるなど、もう少し菰野町に特化して、ICTを活用して住民サービスを高めるための具体例を示してはどうかと思います。より具体的で分かりやすくなるかという気がいたします。

#### 〔0-3-2 危機管理〕

委員：災害対策であれば、自助、共助、公助、ここで言う「町民、地域の役割」と「行政の役割」で整理がつくかと思います。自助、共助の部分は、日頃からの組織化や訓練を進めることであり、公助の部分はBCPに基づいて役割を果たすことだと思います。さらに、行政として重要なのが、基本的に滋賀県など、新名神で救援が来るとと思いますが、その受援体制と中継基地としての役割を果たすことになるとと思います。これは行政の大きな役割で、情報発信するだけではなく、公助という観点から、受援体制は構築しますと踏み込んで書いていくべきかと思います。

#### 〔2-1 子育て、学校、青少年〕

委員：子どもを取りまく環境が著しく変わってきているという気がします。特に子育てに関する受け皿、担い手、保育士も非常に不足していると言われていています。やはり親の働き方が多様化してきている中での、人材の充実というのも非常に大事ということを感じています。

委員：12 ページで、「生きる力を育む学校教育の充実」のところで、「学校運営については、地域とのつながりを大切に」というのは、当

然だろうと思います。制度的な枠組みとしてのコミュニティスクールに向けての積極的な取り組みというのは、どこかで表現しておいていいのではないかと思います。それから町長の公約の一つが中学校給食の実現です。中学校給食を導入するということを総合計画に書き込む必要はないけれども、「食育」を重視していくというのが「生きる力を育む学校教育の充実」の一つとなるという位置づけをしておくことが必要だと思います。

委員長：子どもたちを地域で守り、育てる意識を持つことが地域の責任となっています。実際、私の地区の菰野小学校2年生が、約180人いますが、9月から10月にかけて3日間程度、川の生き物調査を、10年ほど受け入れています。大人が魚を捕ると、「先生、私も捕って」と我々が「先生」になります。それから私は学童保育に携わっていますが、菰野小学校の学童は全体の約2割の170人を超えています。地域で子どもたちを守らないということで、学童保育運営に多くの方が携わっていただいています。そういう学童保育にしても地域で子どもを守るということに対しても行政としては縦割りではなく、所属間で連携を図るなど、横のつながりを持っていただきたいと思います。

#### 〔2-3-1 多様性・人権〕

委員：2-3-3「多文化共生社会の形成」の中で、定住外国人の問題ですが、ここに示しているとおりに思います。これからもう一歩進める必要はないのだろうか。どういうことかということ、結局、彼らは、税金を払っているが税金の使い道に対して意思表示の機会、投票権が無いです。私は、定住外国人が菰野町に対して意見を言うような機会を提供するというのは、これからあっていいのではないかと思います。参政権はないので、意思表示する機会というのは、あえて行政の役割として作っていく必要があるような気がします。

委員：2-3-1も2-3-2も「目指す方向」というのが、「啓発活動を図ります、推進します」としてはいますが、10年前から変わっていないと思います。10年前から比べると、世の中は大きく変わっています。私自身の考えとしては、男女平等というのは、フィジカルや性別の差というものが確実に存在しているので、あり得ないと思います。しかし、日本にはそういったものを補完する制度もかなりあり、第3号や寡婦制度というセーフティネットで守られている方もいます。男性だから、女性だから得、男性だから、女性だから損ということは、制度上では大きく差がないと思います。ただ、不平等という部分では、女性の選択肢が非常に少ないことがあります。これはこうあるべきといったように、まだとらわれているから、何一つ変わらないのです。ありきたりの今までの考えをまず行政から外していかないと、この啓発活動につながらないのかと感じています。スタンダード

は、「男性である」、「女性である」、LGBT というような、そういう文言ではなくて、「分からない」や「どれにも属さない」というのと、「答えたくない」という、この3つの性別の記入というのがスタンダードになりつつあるということの流れを是非行政として知ってほしいと思います。何を選ぶのかは個人の自由なので、選択権が当たり前になっていくと、男女間の、メリットデメリットが少なくなると感じています。

委員：三重県が性自認の条例を検討しています。それは意識しておいたほうがいいかもしれません。今、話があったようなことを条例で規定しようかというところをしているみたいです。本当は男女共同参画社会の形成の、とかではなくて、多様性を認め合い、人権を尊重するという中で男女共同参画社会も形成していくというような、そういう形のほうがいいのかも说不定です。

#### 〔2-4 生涯学習・スポーツ〕

委員：地域でつながり、支え合うしくみを作ろうとしています。課題を先に申し上げますと、5行目ぐらいから書いてありますが、「指導者不足や参加者の固定化などの課題に対する対応が必要となっています。」まさしくこのとおりで、とにかく参加者が固定しているということ、私は無理矢理入れられたというようなことがあるということです。「個人の学習だけでなく、まちづくりの上でも重要な要素となります。」としています。このとおりで、地域活性化の発展に貢献するという意味があり重要なことであると思います。

委員長：図書館については、菰野町民だけでなく四日市、いなべ市からも、たくさんの方に利用いただいて、学習室が利用しやすいということでもいつも満員です。本当に良い図書館で、年1回程度、「リサイクル・フェア」において古本や雑誌などを希望者へ譲るなど、常に蔵書を新しいものに変えるよう努力をいただいています。それと資料館も併設しており、資料館の充実ということも非常に菰野は頑張っているから、是非この生涯学習の言葉の中に、本当に一生涯を通じて本に親しんでいただく図書館、勉強環境の充実を更に推し進めていくという意味を込めて表現していくべきではないかと思っています。

委員：行政運営の効率化のところ、果たして生涯学習、スポーツを明記する必要があるのかというような意見提示もありました。ただ生涯学習、スポーツを通じて、地域の人とのつながりを促進させるというメリットがあるとしています。しかし、今菰野町が、提示している高齢者向けの生涯学習については、非常に地域間の不公平感があると思います。受益される方がいつも同じメンバーに限られてしまっていると感じており、それがもう何十年と続いてしまっているのではないのでしょうか。やはり行政運営の効率化を考えても、生涯

学習、スポーツの文化的な振興というのは町の方向性として必要だとしていくのであれば、その理由が「地域をつなげるものである」とすれば、もう少しその生涯学習の場を、けやき、社会福祉協議会に集合ではなく、学校単位よりもう少し小さく分けて、各地区に広げていく必要があると思います。せっかく公民館のようなものが、それぞれの地区に充実して出来たわけなので、そこをもっと大人から子供まで有効活用し、地域をつなげる形まで持っていければ、今後厳しくなる行政運営の中で、この分野に割く理由も出来てくるのかと感じます。

〔3-1 環境〕

委員：3-1-2 ですが、「目指す方向」で「③やすらぎのある斎場の運営を図ります」とし町斎場のことを示しています。急に斎場のことが出てくるのでここで必要なものなのか。他が漠然としているのに、ここだけ斎場という具体的な施設について記載しており、公共施設の項目のところでは示してはいけなんでしょうか。

事務局：これに関しては、どこの項目に入れるかという話は、庁内策定検討委員会の中でも当然ありました。分野で言えば、環境課になるので、環境の項目に入れているという状況です。では、外しておけばよいかという話もありますが、今後、斎場が老朽化していき、整備をしていく必要がある中でどこかで位置づけをしなければいけないということで、この項目で整理をしています。

委員：菰野インター付近の土地開発のところは、「潤いのある景観の形成」や、「安心とやすらぎを感じられる環境づくり」、「みんなで取り組む自然環境の保全と快適な生活環境の確保」など全て横断的に関係してくると思います。菰野町の自然というのは、非常に、特徴でありますので、そういうところを留意して開発行為をしていただくようお願いしたいということです。

委員：火葬炉の修繕が必要だということであれば、公共施設の長寿命化の項目でまとめるということではいかがでしょうか。

委員：火葬炉の設備の老朽化が課題で、それをこの次期総合計画の期間中に新しくするのであれば、ここに位置づけておかないと、補助金の問題があるのかとも思います。しかしよりお金のかかる 26 ページの清掃センターを新しくする時に、この表現で充分かということです。「20 年の延命を目標とした基幹的設備改良工事を実施」したので、今回のこの計画期間中は、今の焼却炉で行くっていう方針だということではよろしいでしょうか。この表現で、新設を考えなくてはならないという状況になってしまった時の補助金の対象になるような表現ができているかということです。

事務局：担当課の考えとしては、この 10 年内に大規模改修がないということです。完全な更新ということもないのかと思います。

委員：そういうことならいいですが、ごみ質が今劇的に変わっています。ある自治体で毎年、ごみ質を経年的に洗ってくれているところがあり、そこでのごみ質を見ると、大人のおむつでの高分子吸収剤が山のように出ています。それは分別で回収出来なくて、結局焼却しかないのです、ごみ質が変わった時に、炉は本当に大丈夫かと思えます。旧型の炉でそれがちゃんと焼却できるのか。下水に流すというのが、一つの解決策として、技術的な検討はされていますが、まだもう少し先ですから、そういう意味でごみ質が決定的に変わった時にこの焼却炉が維持出来るのかどうか心配です。

〔3-1 排水、水供給〕

一 同：意見なし。

〔4-1 観光、4-2 文化〕

委員：最近出てきたワーケーションとか、そういう言葉も取り込んでいった方がよいのではないかと。

委員：菰野町の中で、観光、温泉などが重要という認識はありますが、この「住民ぐるみでの『もてなしの心』が不可欠です。」という文言と、町民の役割として「観光客に対するおもてなしの心をもつ」、という部分で、果たして菰野町が観光の町という位置づけなのだろうかという疑問があります。定住する方の多くがこの自然を求めて来ているのと、住みやすい、子育てによい環境だというのは、アンケートで明らかになっています。観光をどのような方面としてもっていくのか、地域の資源をどのような方向性で守っていくのかを含めて考えていくことが必要だと考えると、『もてなしの心』が不可欠です。」となり、どんどん山を崩していき、ハードな部分が作られていくと、「もてなしの心」というよりかは、何か、「元あった自然がなくなっていっちゃうね」という感覚に陥ってしまうのかと思います。そうすると「おもてなしの心」を持つことが難しいということになってしまうのではないかと感じます。

委員：消費の形態というのが、モノ消費からコト消費へ変わってきています。そのコト消費の中に自然を体験する、モノを買うということではなくて、行って体験するという、従来の観光とは違った見せ方も必要になってくると思います。そういう消費の形が変わっていく中で、経営的な要望になってしまうのですが、コト消費で来られた観光客に対応する中で、「おもてなしの心」を持ってくださいねというように投げかければ、もう少し理解が得やすいのではないかと思います。

委員長：4-2-1 の関係ですが、田光のシデコブシについて示しています。今、盛んに菰野町の名前の由来のマコモ、マコモの原生地の自生地について、それを保全していかないと、もうここ数年のうちに原生種である自生地が無くなっていく状況にあると思います。その保全や保

護していくという項目を入れたらどうかと思います。

〔4-3 農林、商工〕

委員：三河地区での会議で学んだことですが、三河地区は山も海もありますが、その三河地区全体で、海を守るために山側の町のところで、川に野菜屑を大量に放り込むという事業があります。それは何故かという、三河湾の水質について、途中の市町村がきれいにし過ぎてリンが少なくなり、栄養素の豊富な水質を守るために、山の上の方であえて自然分解、生分解されるものを撒いているということがあります。会議で言われていたことが、山も海もつながっている、水は高いところから下の方に流れていくということです。菰野町から生まれた水が四日市の方につながっていくということを考えれば、山があるからこそ下の方の水質も守られて、保全されなければ洪水などにつながります。山の地域だけで山を守るのではなくて、広域連携をして、海の地区の人も山を守って、そこで自分たちの水がそこから来ているとか、海の幸はこの栄養があって来るということ、教育しているということがありました。この地域一帯、広く菰野町を出た地域一帯で山を守っていくというような取り組みが、菰野町のほうから発信、提案していき、広域連携につなげていただくのも一つの案かなと思います。

委員長：関連することですけど、菰野町クリーン大作戦をしています。昨年度から伊勢湾の浄化作戦の一環として、三重県の事業に菰野町はこのクリーン大作戦を通じて、伊勢湾の浄化を行っていくという意味で、参加させていただいています。この3月は新型コロナウイルス感染防止で中止となりましたが、伊勢湾のクリーン大作戦というか浄化については、菰野町はクリーン大作戦を通じて、ごみを出さない、川、山を汚さないということです。来年度以降も推進していきますので、三河湾をきれいにするという話と同様に、伊勢湾をきれいにしていくということです。

委員長：ありがとうございます。いろいろと新たに出ました意見を踏まえて、素案作成をしていきたいと思います。では、専門委員の方から、今日の議論を踏まえまして、まとめ的なご意見をお伺いしたいと思います。

委員：伝わりにくい部分があるとありましたが、一般的な総合計画であれば最後に来るような、計画の推進体制の部分で「これが一番大切だよ」ということで一番に持ってきたことにより、次の具体的な項目とうまく整合していないというのが、確かに見にくい部分、分かりにくい部分というのはご指摘のとおりだと思います。そのために、少なくとも住民自治に期待することは、具体的にもう少し示していけるかと。例えば、観光の部分は、10年前の議論を思い出して



みると、観光業者の方がいて、観光の産業というだけではなくて、「国の光を見る」というのが語源だから、要するに菰野町民の生活というものを見ていく。そして見ること、見られることによって菰野町民の生活が向上していくというような、それが観光だというような話から、住民自治のしくみの中でも観光というのは必ず考えなくてはならないという位置づけを確認したように記憶しています。そのような観光と住民自治のしくみとの関係であるとか、例示みたいな形でも住民自治のしくみに期待するもの、住民として取り組まなくてはならないものなどを分かりやすくしていく必要があると思います。それを支える行財政運営があり、そのためには、やらないことを決めるということも財政運営上は必要だということです。そういうような形で表現していけば、分かりやすくなるのかと思います。

委員長：今回は、「基本構想」の中間案のとりまとめを目指していきたいと思います。今日は、長時間にわたりありがとうございました。

3. その他  
(事務連絡)

(閉会)